

なんもく・山村ぐらし通信

富山視察研修参加レポート

昨年11月、富山県朝日町・南砺市への視察研修会が行われ、村民19名が参加しました。地域おこし協力隊の若手隊員が詳細をレポートします。

11月1日朝、ひとぼしの

写真を張り付けた役場のバ

スは参加者を乗せ、南牧村を出発しました。休憩した

高速のパーキングエリアからは日本海が一望でき、そこからは広大な水平線に沿

って進みます。群馬では見られない大海原に感嘆の声が上がり、研修への期待に胸が膨らみました。

初日に訪れたのは富山県で最も東に位置する朝日町。ここは昔の宿場町で、ヒスイが採れる海岸が目の前に広がっています。休憩

時間には全員でヒスイを探しに海岸へ。ツルツルのヒスイ石は簡単に見つけられるはず！そう息巻いて目を

銭に変え探し回りましたが結局誰も見つけられませんでした。次に朝日町役場に

着くと重さが約3・9トンもあるヒスイの展示が目

飛び込んできました。元大関の小錦さん15人分に及ぶ

ヒスイに圧倒されながら、一行は会議室に移動、笹原

町長ほか役場の方々の説明

き誇る桜、真っ赤なチューリツブが一枚の写真に収まる美しい景色を地元農家の方々と作り上げていました。

二日目に訪れたのは、富山県南砺市。14年前に8つの町村が合併して生まれたこの市は、現在人口が5万

1千人もいます。しかし、市役所近くの商店街ではシ

ャッターが閉まった店が多く、どこへ行っても過疎化

と高齢化は避けられない状況なのかと、バスの中から

思いあぐねていました。市が進める移住施策の説

明を市役所で受けた我々は、南砺市といえばナント

いってもココ、越中五箇山の相倉地区に向かいました。

合掌造りの家々が並ぶ集落は豪雪地帯に暮らす人

々の知恵が育んだ独特の景観として、平成7年に世界

文化遺産に登録されました。急勾配の切妻造りと茅

葺き屋根が特徴の合掌造りの家屋は、明治から昭和初期に作られたものが多いのですが、一部は江戸時代に建てられた家もあるとか。ここは稲作に不向きな土地柄のため、僅かな畑地と焼き畑でヒエ、アワ、ソバなどを栽培したり、山林から炭、薪、漆などを生産したり、合掌造り家屋の広い二階一間で養蚕を行ったりして生計を立てていました。しかし南牧村と同様に、一次産業は次第に衰退しました。その時、それらに取って代わるものが出てきました。それが観光です。集落になかった土産物屋や宿泊施設の設置により、五箇山は昔の賑わいを取り戻しています。それらは決して個人がやっているわけではありません。合掌造りの維持には、屋根の葺き替えや囲炉裏の煙による燻煙などが必要不可欠です。誰かが住んでいないと、築百年の家など、すぐに朽ち果てるで



相倉合掌造り集落。観光客で賑わっていました

2019(平成31)年2月発行
通巻第28号版(冬季号)
発行責任者及び発行元：
南牧山村ぐらし支援協議会
問合せ：南牧村役場
村づくり・雇用推進課
協議会事務局
電話：0274-87-2011(代)
紙面編集：松林・谷津



協議会QRコード

協議会HP
<http://nanmoku.org/>
活動内容や各種情報を随時更新中！

オールぐんま移住フェアに参加

7組の移住希望者に南牧村の魅力のアピール

昨年10月21日に東京・有楽町の東京交通会館で開催された「オールぐんま移住フェア」に、移住相談員として参加しました。

村に移住して3回目の移住相談会でしたが、当日は天候にも恵まれ、私が参加したなかでは過去最大となる7組の移住希望者に、南牧村の魅力や移住の経験談などを話すことができました。

今後とも相談会に参加して村をアピールする

活動は「地方分散型」につながるのか

なと思ってしまう。それぞれに何事にも一長一短はあるわけで、移動するのには車を使ったり、電気を使ったりするのは、巡って環境負荷になりま

す。だとしても「地方分散型」の方にのどかなイメージを思い浮か

べるのは自分だけでしょか？

全てとは言いませんが、南牧の空き家に一軒でも多く生活の灯りが点るよう、今年も活動していきます。

会長 金田鎮之

会

会



南牧村に興味を持ってくれることを期待

新年の挨拶

昨年5月頃に、人工協議会より

知能を使った日本の未来予測が、ある大学教

授と企業から提言されました。30年後

の未来に向けて約二万通りのシミュレーションをした結果は、都市集中型と「地方分散型」の二つに大別された

そうです。これを見ると、当協議会の

活動は「地方分散型」につながるのか

なと思ってしまう。それぞれに何事にも一長一短はあるわけで、移動するのには車を使ったり、電気を使ったりするのは、巡って環境負荷になりま

す。だとしても「地方分散型」の方にのどかなイメージを思い浮かべるのは自分だけでしょか？

なんもく 冬の風物詩

どんどん焼きの季節

どんどん焼きは南牧村でも昔からあちこちの地区でおこなわれています。私も幼い時から地元のだんどん焼きに毎年のように行っていました。

日本全国各地で行われており、その年1年の無病息災を祈る行事として広く知られています。

まただんどん焼きと呼ぶ方が一般的に多いようです、とgoogle先生が教えてくれました。空き地や田んぼなどで行う所が多いようですが、南牧村では河川敷の広いところに正月飾りや注連縄を各家々から持ち寄って、積み上げた木の櫓と一緒に燃やします。



焼いた団子を食べれば、1年間無病息災！！

大勢集まり、お賽銭も投げっていました。次の日の朝早く火の消えたところへ行くとそのお賽銭を探し集めたのは私だけではないはず！大人になった今では賑やかさも減って、だんどん焼きの準備をする側にもなってきたので昔のような楽しさみも薄らいでしまいましたが、それでも年始に地域の皆さんに挨拶できたり楽しく話しかけたり、火の暖かさに触れたり貴重な体験ができる機会です。

少しずつ異なるかもしれませんが、ぜひ皆さんも自分の住んでいる地域のだんどん焼きに足を運んでみてくださーい。

～中澤会員寄稿～

我・想・明・村

～思いを行動へ繋げて～

縁あってこの村に暮らし、日々を送るなかに、きつとこの村のために自分たちにできることがなにかあるのだらうと思います。その昔、宴席で熱く語った言葉をかたちにするために、まずは動いてみる。動きがあればきつとその先がまた少し見えてくるような気がします。なにかきつと自分たちにできることがあると思ひながら。

～まだまだ村のわけー衆～



昭和12年頃の星尾「塩水鉱泉」(左)休憩舎(右)湯舎

この初代星尾温泉、薪不足により昭和25年に営業を終えました。その後、温泉小屋も撤去され、この場所には源泉がこんこんと湧くのみでした。この源泉を約二〇〇m集落内に引き入れ、空き家だった古民家を修理してオープンしたのが、二代目の星尾温泉です。68年の時を経て復活した温泉に足を運んでいただくと嬉しいですね。



復活した二代目の星尾温泉「木の葉石の湯」

昨年9月、村で唯一の温泉 星尾温泉 木の葉石の湯」が、星尾の仲庭地区にオープンしました。これは、かつて集落の共同浴場として昭和25年まで使われていた温泉を復活させたもので、いわば二代目。ということ、こ

の写真は、昭和12年頃に撮影された真正銘の初代星尾温泉です。当時は「塩水鉱泉」と呼ばれていて、住民の憩いの場として親しまれていました。右の小屋が浴室、左の建物は休憩所。休憩所の外には子供を連れた住民の姿が大量に写っています。鉱泉なので、源泉は薪で湧かしており、写真中央には薪がうず高く積み重ねられているのが見えます。

当時の温泉は、集落から少し登った山中の源泉近くにありました。

当時の温泉は、集落から少し登った山中の源泉近くにありました。

協議会からのお知らせ

山村ぐらし支援協議会では、使われなくなっている古い民具・道具・木製の建具などを、村民のみなさまからご提供頂き、この村へ移住をされた方などが活用できるように制度を準備し、少しずつですが動き始めています。

「これ、良かったら、使ってください！」という古民具や木製の建具などがございましたら、是非お知らせください。

ご連絡は役場・高柳か協議会会員まで。

～役場村づくり・雇用推進課高柳まで～

南牧村の古い写真を探してみよう！

昔の南牧村の様子や生活、構造物や行事等を記録した古い写真を探しています。写真が悪くても、折れて曲がっていても大丈夫！ぜひいちど引出の奥を覗いてみてください。お知らせ頂ければ、お伺いしたりお借りする方法で、デジタルデータとして撮影、保存させていただいて公開を目指しています。

～役場村づくり・雇用推進課高柳まで～